

ギャラリー 絵画コレクション展

## 生誕110年 春村ただを展

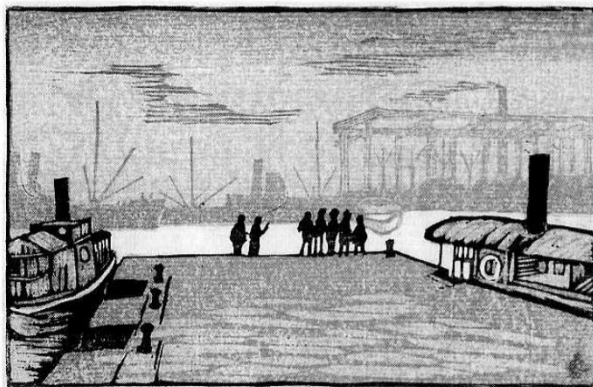
春村ただを（1901～77）は、大正末期から昭和戦前期に神戸で川西 英とともに活躍した木版画家です。

本名は田邊唯雄。最近まで足跡を辿ることができなかったのですが、九十九里浜にほど近い千葉県長生郡南白亀村（現白子町）に生まれ、千葉中学校卒業後に来神、関西学院在学中に北村今三と出会って版画を始めた経歴が判明しました。

神戸の近代建築を題材にした版画集『神戸風景』（1927）を世に出し、川西らと版画グループ・三紅会を結成し（1929）、裸婦デッサンの精華をまとめた版画集『春』（1931）を発表するなど、創作版画史にきらりと輝く業績を残しました。

しかし、勤務先の会社で事故に遭い版画を断念、戦後千葉に戻り公務員人生を全うした知られざるモダニストです。神戸大空襲で全作品を失う前に、作家本人が神戸市立中央図書館に納めていた作品17点が見出され、平成22（2010）年春当館に保管転換されました。

生誕110年を記念して、一堂に展示いたします。



10. 春村ただを 版画集『神戸風景』四.《K造船所遠望》  
1927（昭和2）年 木版色摺・紙

平成23年（2011）1月18日（火）～3月6日（日）

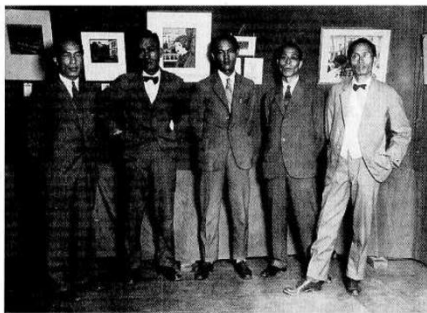
神戸市立博物館 2階ギャラリー

〒650-0034 神戸市中央区京町24 TEL 078-391-0035

休館日：毎週月曜日

同時開催（2月13日まで）：ワイドビューの幕末絵師 貞秀 / 江戸時代の日本図・中国図

開館時間：午前10時～午後5時（金曜日は7時まで開館、入館は閉館30分前まで）



第1回三紅会版画展にて 1929

福井市郎、北村今三、春村ただを、川西 英、菅藤霞仙

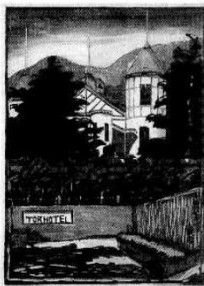
生没年不詳と伝えられていた版画家“春村ただを”。

思いがけないきっかけから父とその作品を陽の当たる場所に出していただき、感謝の気持ちでいっぱいです。父、版画、三紅会、展覧会場、ブラジレイロ、大丸、北村今三さん、川西 英さん、前田藤四郎さん、福井市郎さん……走馬燈のように数々の思い出が浮かんできます。8歳まで一人っ子だった私は、親たちの話に興味津々だったのでしょうか。不思議なほど鮮明に記憶に残っているのです。

神戸大空襲で「全てを失ってしまった」と諦めていた父の版画が、あちらこちらに残されている事を知り、言葉にならない喜びでいっぱいです。

生誕110年春村ただを展によせて

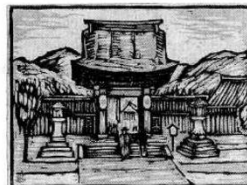
多田晶子（春村ただを長女）



6 <トーア・ホテル>



7 <メリケン波止場>



8 <楠公社正門>



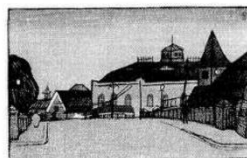
11 <メソヂスト教会>



9 <トーア・ホテル>



12 <夜の居留地>



13 <相生橋>



14 <神戸タワー>

生誕110年春村たさを展〔会期：2011年1月18日～3月6日〕 出品作品

神戸市立博物館 ギャラリー

作家名	作品名	制作年	技法・材質	寸法	出品展覧会
1 小見寺八山	神戸港図	1934 (昭和9) 年	油彩・キャンバス	63.8×121.3	
2 金山平三	富士に梅	1935～45頃	油彩・板	31.6×40.3	
3 田村孝之介	黄衣婦人像	1936 (昭和11) 年	油彩・キャンバス	90.7×72.6	第10回全関西洋画展
4 西村元三朗	段をのぼる人	1951 (昭和26) 年	油彩・キャンバス	91.0×116.7	第2回関西総合美術展
5 別車博資	九十九里浜	1966 (昭和41) 年	水彩・紙	69.3×100.1	第28回一水会展
6 春村たさを	トーア・ホテル	1922 (大正11) 年	木版色摺・紙	33.0×23.7	
7 春村たさを	『神戸風景』一、メリケン波止場	1927 (昭和2) 年	木版色摺・紙	13.7×18.7	第1回三紅会展
8 春村たさを	『神戸風景』二、楠公社正門	1927 (昭和2) 年	木版色摺・紙	13.8×18.5	第1回三紅会展
9 春村たさを	『神戸風景』三、トーア・ホテル	1927 (昭和2) 年	木版色摺・紙	15.0×20.8	第1回三紅会展
10 春村たさを	『神戸風景』四、K造船所遠望	1927 (昭和2) 年	木版色摺・紙	13.5×20.8	第1回三紅会展
11 春村たさを	『神戸風景』五、メソヂスト教会	1927 (昭和2) 年	木版色摺・紙	21.2×13.5	第1回三紅会展
12 春村たさを	『神戸風景』六、夜の居留地	1927 (昭和2) 年	木版色摺・紙	13.2×18.1	
13 春村たさを	『神戸風景』七、相生橋	1927 (昭和2) 年	木版色摺・紙	13.4×21.1	
14 春村たさを	『神戸風景』八、神戸タワー	1927 (昭和2) 年	木版色摺・紙	22.6×13.4	第1回三紅会展
15 春村たさを	『春』一、春の花束	1931 (昭和6) 年	木版色摺・紙	28.5×20.3	第3回三紅会展
16 春村たさを	『春』二、花と少女	1931 (昭和6) 年	木版色摺・紙	17.8×30.0	第3回三紅会展
17 春村たさを	『春』三、草	1931 (昭和6) 年	木版色摺・紙	15.0×25.5	第3回三紅会展
18 春村たさを	『春』四、青い布	1931 (昭和6) 年	木版色摺・紙	25.5×17.8	第3回三紅会展
19 春村たさを	『春』五、臥裸婦	1931 (昭和6) 年	木版色摺・紙	13.6×30.2	第3回三紅会展
20 春村たさを	『春』六、挿花	1931 (昭和6) 年	木版色摺・紙	30.1×14.3	第3回三紅会展
21 春村たさを	スケートイング	1935～36 (昭和10～11) 年頃	木版色摺・紙	29.5×23.2	第5回三紅会展／第11回国際オリンピック芸術展
22 春村たさを	アイスホッケー	1935～36 (昭和10～11) 年頃	木版色摺・紙	29.0×35.2	第5回三紅会展／第11回国際オリンピック芸術展
23 川西 英	電車の通る街	1920 (大正9) 年	木版、水彩・紙	29.9×22.1	第5回日本創作版画協
24 川西 英	神戸海岸風景	1929 (昭和4) 年	木版色摺・紙	28.4×35.2	第4回国展
25 川西 英	古道具屋	1941 (昭和16) 年	木版色摺・紙	44.5×60.0	第16回国展
26 神原 浩	銀釘	1937 (昭和12) 年	エッチング・紙	25.9×29.4	第1回新文展
27 神原 浩	田園詩趣 (西宮)	1930年代後半頃	エッチング・紙	16.0×29.5	
28 神原 浩	雨の新聞地	1941 (昭和16) 年頃	エッチング・紙	18.4×11.4	
29	三紅会関係資料				



15 《春の花束》



16 《花と少女》



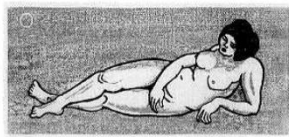
17 《草》



20 《挿花》



18 《青い布》



19 《臥裸婦》



21 《スケートイング》



22 《アイスホッケー》

## 春村ただを（1901～77）略年譜

西暦	和暦	年齢	事項
1901	明治34年		7月7日、田邊祿祐、くへの長男・田邊唯雄として、千葉県長生郡南白亀村（現白子町）浜宿に生まれる。
1915	大正4年	14歳	4月、県立千葉中学校に入学。
1920	大正9年	19歳	3月、同校を卒業。 4月、関西学院高等学部商科に入学。同校で生涯の親友となる版画家・北村今三と出会う。
1922	大正11年	21歳	2月、第4回日本創作版画協会展に「春村ただを」の名前で《風景・冬》を発表。 2月、関西学院の美術部・弦月会が主催した「創作版画展覧会」に「田邊春村」の名前で《風景（冬）》《風景》《像》《ねむり》を発表。川西 英らと交流。 この年、関西学院を退学。
1923	大正12年	22歳	5月、第5回日本創作版画協会展に《早春の郊外》《風景》《七月の頃》《滞船》を発表。
1924	大正13年	23歳	5月、[HANGA] 第2輯に「春村ただを」で《うす陽ざす風景》を発表。
1925	大正14年	24歳	2月、[HANGA] 第5輯に《風景（複製）》を発表。 4月、「春村ただを 版画個人展覧会」を開催（神戸市県会議事堂）。 12月、同人誌「PIONNIER（ピオニエ）」を、福岡 進、富岡 進、澤井敬太郎と創刊。 12月、[HANGA] 第8輯の表紙画として《風景（複製）》を発表。
1926	大正15年	25歳	この年、第7回ロサンゼルス国際版画展覧会に《あざぎり》を出品。 7月、[HANGA] 第10輯に《風景（朝）（複製）》を発表。 この年、貿易商社の同僚だった池澤千代野と結婚。
1927	昭和2年	26歳	2月、第7回日本創作版画協会展に《神戸・青谷風景》《尼ヶ崎風景》《居留地風景》を発表。 この年、神戸版画家の家より版画集「神戸風景」を発表（30部限定）。 7月、長女・晶子が生まれる。
1928	昭和3年	27歳	1月、第8回日本創作版画協会展に《メリケン波止場》《トアホテル》を発表。 4月、第6回春陽会展に《青谷風景》を発表。
1929	昭和4年	28歳	1-2月、第9回日本創作版画協会展に《神戸元町スケッチ》を発表。 5月、川西 英、北村今三、福井市郎、菅藤露仙と三紅会を結成。 6月、第1回三紅会版画展（6/2～4、神戸・三越）に17件発表。
1930	昭和5年	29歳	5月、「きつつき」創刊にあたり、川西 英、前田藤四郎とともに同人となる。 6月、第2回三紅会版画展（6/10～12、神戸・三越）に10点発表。 6-7月、神戸又新日報に掲載された懸賞紙上探偵小説《春日野 緑（著）の挿絵を描く。第3話「埃及の怪殺人」、第4話「三人兄弟の死」、第5話「疑問の頭飾」、第6話「ニセ物鑑定」を担当。
1931	昭和6年	30歳	1月、第1回兵庫県美術家聯盟展に《がらふつ（一）》《がらふつ（二）》を発表。 9月、第1回日本版画協会展に《揮花園》を発表。 11月、第3回三紅会版画展（11/23～24、神戸・朝日会堂）に15点発表。 この年、版画集「春」を発表。
1932	昭和7年	31歳	6月、第4回三紅会版画展（6/21～23、大阪・心斎橋、ダイヤ画廊）に4点発表。 10月から翌年2月にかけて、「フラジレイロ三紅会展」が大阪、京都、神戸を巡回。
1935	昭和10年	34歳	4月、次女・文子（あやこ）が生まれる。 6月、第5回三紅会版画展（6/15～17、神戸・そごう）に7件発表。 7月、三紅会版画講習会（7/19～21、神戸・そごう）で木版画の講師をつとめる。
1936	昭和11年	35歳	6月、第6回三紅会版画展（6/23～27、京都・烏丸、大丸）に7点発表。 9月、第11回国際オリンピック芸術展覧会（ドイツ・ベルリン）に《スケートティング》《アイスホッケー》を出品、入選。
1936～37頃	昭和11～12年頃	35～36歳頃	神戸市立中央図書館に《トア・ホテル》「神戸風景」《春》《スケートティング》《アイスホッケー》を寄贈。
1938頃	昭和13年頃	37歳頃	肝油会社で作業中に右手を大怪我し、版画を断念する。
1945	昭和20年	44歳	6月5日、神戸大空襲で家屋、全作品、100点以上の版木、紙と版木のストック、彫刻刀などの道具類を焼失。 敗戦まで、義兄の経営する重需工場を手伝うため大阪に単身赴任。家族は桑名郊外の疎開先で過ごす。 9月、故郷の千葉県長生郡南白亀村に家族とともに戻る。
1948	昭和23年	47歳	鶴澤治躬の紹介により南白亀村役場に勤める。
1955	昭和30年	54歳	2月、南白亀村・関村・白湖村が合併し白子町誕生。その後、白子町役場総務課統計係、新町事務室、福祉課年金係に勤務。
1963～64頃	昭和38～39年頃	62～63歳頃	千葉県展に《アナナス》《ほね貝》を出品するものの落選。
1965	昭和40年	64歳	7月、白子町役場を退職。白子町学校給食共同調理所に勤務。
1966	昭和41年	65歳	4月、退職。
1967	昭和42年	66歳	脳溢血で倒れる。妻も体調不良となり、長女・多田晶子氏宅へ移る。 5月10日、妻・千代野死去。
1977	昭和52年	76歳	10月15日、逝去。

※詳細は、「神戸市立博物館 研究紀要 第26号」（2010）を参照ください。

